

(様式第 1 号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和 6 年度 第 2 回 芦屋市地域包括支援センター運営協議会
日 時	令和 6 年 9 月 1 9 日 (木) 午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 3 0 分
場 所	芦屋市役所分庁舎 2 階 大会議室 1・2
出 席 者	会 長 家高 将明 副 会 長 有田 幸生 委 員 宮崎 満梨瑛・馬場 幸子・村角 充彦・木下 京子・和田 周郎 谷 仁・山本 眞美代・三谷 康子・山田 弥生 欠席委員 山川 範 関係機関 芦屋市西山手地域包括支援センター 鈴木 珠子・中村 貴紀・森 寛子 芦屋市東山手地域包括支援センター 税所 篤哉・仲西 郁子・加藤 由起輝 芦屋市精道地域包括支援センター 田中 裕美・黒岩 秀子 芦屋市潮見地域包括支援センター 善積 雅子・宮本 紘子 基幹的業務担当 上田 利重子・針山 大輔
事 務 局	こども福祉部福祉室主幹 (高齢者施策担当課長) 久保田 あずさ こども福祉部福祉室高齢介護課 課長 竹内 典子 こども福祉部福祉室高齢介護課 係長 山本 直樹 こども福祉部福祉室高齢介護課 係員 西村 勇一郎・知北 早希・岡野 陣之介
会議の公開	公開
傍 聴 者 数	1 人 (公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

- (1) 地域包括支援センターの増設について (公募結果)
- (2) 認知症施策の報告
- (3) 芦屋市地域包括支援センターの職員に係る基準等を定める条例の一部改正 (案) について
- (4) 地域包括支援センター活動状況の報告 (包括評価・イチオシ活動)
- (5) 介護予防支援業務の委託を認定した市内居宅介護支援事業所について
- (6) その他

2 提出資料

- (1) 議事次第
- (2) 資料 1 地域包括支援センターの増設について (公募結果)
- (3) 資料 2 認知症施策の報告
- (4) 資料 3 芦屋市地域包括支援センターの職員に係る基準等を定める条例の一部改正 (案) について
- (5) 資料 4－1 地域包括支援センター活動状況の報告 (包括評価)
- (6) 資料 4－2 地域包括支援センター活動状況の報告 (イチオシ活動)
- (7) 資料 5 介護予防支援業務の委託を認定した市内居宅介護支援事業所
- (8) 委員名簿
- (9) 地域包括支援センター運営協議会設置要綱
- (10) 地域包括支援センターの設置及び運営に関する要綱

3 審議内容

(事務局 久保田)

それでは時間となりましたので、只今より令和6年度第2回芦屋市地域包括支援センター運営協議会を開催します。委員の皆様におかれましては、ご多忙のところご出席をいただき誠にありがとうございます。

本委員会の司会を務めます、高齢者施策担当課長の久保田と申します。よろしくお願い申し上げます。

次に本協議会の成立状況等についてお伝えいたします。

本日は現時点で、委員12人中11人の委員がご出席であり、委員定数の過半数の出席ですので、本会は成立していることをご報告申し上げます。

また、この協議会は、附属機関等でございますので、芦屋市情報公開条例第19条により原則公開となっております。本日の発言内容、発言者のお名前等は議事録として市のホームページ等にて公開されることになりますので、あらかじめご了承をお願いいたします。また、議事録作成のため、ICレコーダーでの録音をさせていただきますので、合わせてご了承をお願いします。

なお、本日は東山手高齢者生活支援センターの実習生として、日本福祉大学 福祉経営学部の実習生1名と要約筆記ボランティア2名が本会議を見学させていただきます。

次に、傍聴につきまして、附属機関等の会議の傍聴に関する運営要領により、定員の範囲で当該所属機関の長が認めるものとする。となっております。1名が傍聴を希望していますが、委員長よろしいでしょうか。それでは入室いただきます。

最後に、配布資料の確認をさせていただきます。配布資料として、

- ・議事次第
 - ・資料1 地域包括支援センターの増設について（公募結果）
 - ・資料2 認知症施策の報告
 - ・資料3 芦屋市地域包括支援センターの職員に係る基準等を定める条例の一部改正について
 - ・資料4-1 地域包括支援センター活動状況の報告（包括評価）
 - ・資料4-2 地域包括支援センター活動状況の報告（イチオン活動）
 - ・委員名簿
 - ・地域包括支援センター運営協議会設置要綱
 - ・地域包括支援センターの設置及び運営に関する要綱
- の以上の資料を事前に配布しています。
- また、当日配布資料として、
- ・議事次第＜差し替え＞
 - ・【資料4-1】＜差し替え＞地域包括支援センター活動状況の報告（包括評価）
 - ・【資料5】介護予防支援業務の委託を認定した市内居宅介護支援事業所一覧
- を配布しています。

事務局からは以上です。

それでは、これからの会議進行は、家高会長にお願いします。

(家高会長)

それでは、議事に移ります。

事務局より議事（１）「地域包括支援センターの増設について（公募結果）」資料の説明をお願いします。

（事務局 山本）

～資料１「地域包括支援センターの増設について（公募結果）」に基づき説明～

（家高会長）

ありがとうございます。委員の皆様から何か御意見、御質問等ありますでしょうか。

（村角委員）

価格評価のところで、見積等予定金額0.0と出ていますが、予定価格は事前にお知らせしているものですか。どういう仕組みかと思って質問しました。

（事務局 山本）

事前に予定価格としてお知らせしております。

（村角委員）

なるほど。ありがとうございます。以上です。

（家高会長）

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

この先ほど村角委員から質問があった、予定価格のところ、また後ほど包括の報告でも出てくると思いますが、事業運営上、収支でいくと赤字の状況になっているので、この予定価格の設定によっては、こうならざるを得ないと私は理解しておりますが、そういう認識でよかったでしょうか。

（事務局 山本）

はい。

（家高会長）

それでは、議題（２）「認知症施策の報告」に移ります。事務局より説明をお願いします。

（事務局 西村）

～資料２「地域包括支援センターの増設について（公募結果）」に基づき説明～

（家高会長）

ありがとうございます。何か御質問、御意見等ありますでしょうか。

（馬場委員）

あしやの会について初めて聞きました。あじさいの会はよく聞いており、福祉フェアのところでも展示とかいろいろ見かけますが、あしやの会っていうのは分からなくて。やはり、みんなに知られていないのではないかと思いますのですが、いかがですか。

（基幹的業務担当 上田）

基幹担当の上田と申します。認知症地域支援推進員も一緒に動いておりますので御説明さ

させていただきます。あじさいの会自体は家族の会という形で、家族の方を中心として話し合いをしていただく会議になっているのですが、あしやの会は認知症の当事者の方が御自身のこととして語り合える場としてつくられたものです。以前は年に1、2回は開催していましたが、それでは当事者の方の語り合う場を継続して作っていくことができないということで、定期開催という形でさせていただいております。

啓発活動に関しましては、福祉フェアとかでもアンケートを取らせていただいたり、パネル展示をさせていただいたりしていますが、おっしゃっていただいたとおり、啓発が行き届いていないと改めて分かりました。

(事務局 西村)

9月開催のあしやの会について、広報9月号にて周知させていただいたところです。今後も広報等を使いまして、広く市民の方に認識していただけるように周知できればと考えております。

(家高会長)

ありがとうございます。そのほか、何か御質問、御意見等ありますでしょうか。

(馬場委員)

認知症になる前のフレイルという、そういう資料が福祉フェアの時や福祉センターによく出ているのですが、フレイルのほうが大事だと思うので資料をまた出していただきたいなと思います。

(事務局 知北)

地域福祉課の知北です。高齢介護課のほうでフレイルに関する冊子を作成したと聞いておりますので、そういったものも合わせて普及啓発等をしていくように心がけたいと思います。また情報提供させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(家高会長)

そのほか、いかがでしょうか。

(木下委員)

あしやの会の開催、頑張っているということでお聞きしているのですが、当事者の方の参加は少ないということなのですが、具体的にどれぐらいの人数が参加されているのでしょうか。

(事務局 知北)

9月の開催については当事者の方が4名参加していただける予定と聞いておりますが、とても多いほうだという認識ですので、普段は1、2名のこともあると思います。

(木下委員)

ありがとうございます。続いてよろしいでしょうか。

(家高会長)

どうぞ。

(木下委員)

啓発も頑張っているということで、福祉フェアでアンケートなど取られたということですが、実際、福祉フェアで、このブースに来られた方は何名ぐらいおられたのでしょうか。

(事務局 西村)

福祉フェアのほうで市民向けの認知症講座というのを行いまして、それに参加いただいた方が23名程度いらっしゃったのですが、その方に向けてアンケート等を取って行いました。また、その福祉フェアの中で、イベントブースも設けてお立ち寄りいただいた方も対象にしてアンケートを実施しました。

(木下委員)

ありがとうございます。

(有田委員)

有田クリニックの有田といいます。認知症カフェというのが、各圏域に1つ必ずあるということなのですけど。これ、認知症カフェということを全面に出して開催しているのでしょうか。

(事務局 知北)

ありがとうございます。地域福祉課の知北です。特に東山手さんがやってらっしゃるような「さくらカフェ」と呼ばれるものは、多世代交流の場にもされているので、あまり認知症という言葉を押し出さずに、どなたでも来ていただけるような工夫をされています。地域でもともと通っていた場所が、認知症になっても通い続けられるみたいなどころも含めて考えてくださっているので、認知症カフェと打ち出しているところもあれば、どなたでも来てくださいというような知らせ方をされているところもございます。

(有田委員)

この3ページの右下のこのチラシとかに認知症カフェとか書いていると、本人にしろ、家族にしろ、もうこの名前で行かなくなってしまうような気がします。イメージカラーであるオレンジを名前にされるのだったら、そういう形にされるのも良いかと思います。ただ、そのオレンジカフェが認知症の方の集まりだということを周知しないといけませんけど、名前が認知症カフェだと、もうそれだけで行きにくくなるのかなと思ひまして、一応、一言言わせていただきました。

(事務局 知北)

御意見ありがとうございます。

認知症カフェ連絡会等でもそういったことを共有しながら進めてまいりたいと思います。

(家高会長)

そのほか、いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

私のほうから感想みたいな感じになりますが、なかなかこの認知症カフェ、参加者が少ないというところと、ネーミングの問題もあり、どう広報していくのかというところでの難しさがあるかと思いますが、また工夫を凝らしながら、取組を進めていただけたらと思っています。

以前も、この運協で言わせていただいたかもしれませんが、やはり認知症の方の生活を支える、地域生活を支える上での1つの課題となってくるのが早期診断と言われていますが、早期に診断をすると、次にサービスとか支援につながるまでに空白期間が空いてしまいます。結果的にそこで閉じこもりになってしまい、孤立していくということも言われたりしているかと思います。やはり介護が必要となる前の段階で、その地域の中で安心して出かけていくことができる場というのを複数作ることが大切で、この認知症カフェというのは、そのうちの1つになってくるので、非常に意味がある取組かと思っております。

今回の提案の中で、参加者が少ないということで、いろいろと広報活動の工夫をしていくということと、プラス合わせて、それぞれのカフェがネットワークをつくっていき、いろいろとその情報交換をしながら、一緒に考えていくというようなことも提案として挙げてきておりますので、ぜひともいろいろな皆さまの知恵を生かしながら、いい取組になればと思っております。

あとは認知症に関する正しい知識啓発というところで、内閣府の調査などでも、専門職ではなく一般の方々に対して、認知症に関する理解を聞いた調査があり、認知症になると何もできないとか、いろいろ問題行動があるとかというようなことを回答している方が、6割ぐらいの結果になっていったかと思います。なかなかこの認知症に対する偏見というか、誤ったイメージがあったりしますので、啓発をぜひとも今後も続けていただきたいと思います。本人に対するアプローチと、または周囲に対するアプローチということで、力を入れて取り組んでいくことで挙げていただいていますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

それでは、そのほか特にございませんでしょうか。続いて、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局 久保田)

～資料3「芦屋市地域包括支援センターの職員に係る基準等を定める条例（案）の一部改正について」に基づき説明～

(家高会長)

この件に関しまして、何か御質問、御意見等ありますでしょうか。

(東山手高齢者生活支援センター 税所)

東山手の税所です。少し補足させていただきます。昨今の介護人材の不足というところで、うちのセンターのほうでも、いわゆる保健師として配置すべきところを、ここ数年は2～3年は保健師の採用がなかなか難しくてというところで、保健師の代わりとして配置することができる在宅経験が5年以上の看護師の方を採用させていただいて、それで条件を満たしているという状況でございます。

また、今後、保健師の採用で求人等は出しているものの、なかなか保健師の求人というのが見つからない現状でもあり、将来的に考えると、専門職によっては人材が不足して見つからないという現状が近いうちに出てくるのではと認識しております。

(家高会長)

補足説明ありがとうございます。それでは、この件に関しましていかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

今、議会のほうでこの2点を諮っているという話ですが、先ほど事務局のほうからも、この複数拠点で合算して3職種を配置するということは現実的に難しいのではという話がありましたけれども、これに関しては、私も同意見と思っております。

私の場合、大阪で幾つかの地域包括支援センターと関わっているのですが、大阪市のシステムは、地域包括支援センターの総合相談の部分で、ランチということで別法人に委託をして、総合相談のところだけプラスアルファでやっているという取組をしています。区によっても様々ですが、よく聞くのは、総合相談の事業を別法人の包括と一緒にやっていく所で、組織の考え方や色々な違いがあって、なかなかやりにくいというところの意見が挙がっています。大阪市の場合は、その区域内の別法人がランチでやっているのも同じ圏域内なのですが、今回挙がってきている話は別法人で、さらに圏域もまたいでとなると、進めていくのはいろんな工夫が要ると思いますので、現時点では進めていくのは難しいかという印象を持ちました。

この議案に関しましては、特段その他ございませんでしょうか。それでは、議題（４）地域包括支援センターの活動状況の報告（包括評価・イチオン活動）に移っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（事務局 西村）

～資料４－１「地域包括支援センター活動状況の報告（包括評価）」に基づき説明～

（家高会長）

包括の評価を報告いただきましたけれども、この件に関しまして、委員の皆様から何か質問、御意見等ありますでしょうか。

（宮崎委員）

訪問看護ステーション連絡会の宮崎です。この資料４－１のチャートの分ですが、介護予防ケアマネジメントが、令和４年度は全国平均を上回っていて、令和５年度は軒並み全国平均を割っているのは何か要因がありますか。

（事務局 西村）

今のご質問に関連するところが、配布資料の５ページ目にあるＱ５８とＱ６０でして、この２項目ともに数値が「いいえ」という形となっており、得点が下がっている点です。自立支援・重度化防止等のケアマネジメントに関し、市から方針を示せていない点や、Ｑ６０で利用者のセルフマネジメントを推進するため、市から支援の手法を示せていない点もあり、低い点数となっております。

また、先ほど昨年度と比べてと話がありましたが、今回、この訂正を入れたのも、改めて国調査の数字等を再度確認しましたところ、現状としては変わらない状況ではあるのですが、今年度、正しく数値を改めたところ、昨年度と減ったように見えたという形となっております。

（家高会長）

おおむね全国平均を上回っているけれども、ここの部分に関しては、現状としては課題があるという認識でよかったですか。

（事務局 久保田）

はい、そのとおりでございます。この後で介護予防ケアマネジメントの居宅の部分の議案も上げさせていただくのですが、昨今、非常にケース数も増えてくる中で、どれだけ効果的、効率的に取り組んでいくかというのは今後の課題になってくると思っておりますので。今まで割とふんわりとしていたところを今回きちっと評価をさせていただいたというふうに理解していただけたらと思います。

(家高会長)

よろしいですか。

(宮崎委員)

はい、ありがとうございます。

(家高会長)

はい。そのほか、いかがでしょうか。

(谷委員)

権利擁護支援センターの谷です。地域ケア会議を開催するに当たり、包括ごとの開催数にバラつきがあるのは、何か障壁や課題があることが要因かお聞かせいただけますでしょうか。潮見の開催数が多いので、地域ケア会議を開催する考え方が違ったりするのかとか、そういうところをお聞かせいただけたらと思います。

(潮見高齢者生活支援センター 善積)

潮見は昨年度に6回の開催ができましたが、何か狙って回数を上げたというわけでは無く、たまたま、そういう地域課題を話す必要があるような相談事例が多かったです。あと、割と地域の方をお呼びするのに、気軽にこう参加していただけたというようなことが重なったことで、このような開催回数になっております。

(精道高齢者生活支援センター 田中)

精道です。コロナの間どうしても開催を控える傾向があったのですが、今後また増えていくと思います。災害とかが増えている中で、個別避難計画を策定するとかで、今後また増えていくかなという感触は持っております。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

東山手では1件だったのですが、やはり地域ケア会議の課題として、参加者全ての日程調整するのが難しいというのがあります。東山手では、小会議というか、少ない形で会議をして、それを皆さんに共有するというような形ではさせていただいているので、大きなこの地域ケア会議という中では1件しかなかったのですが、その他にそういう会議体を開いているというのが現状です。

(西山手高齢者生活支援センター 中村)

西山手の中村です。様々な個別の課題を解決するに当たって、地域ケア会議という手段を取る場合もあれば、どうしても経済問題ですとか、家族間のケアを深堀しないといけないですとか、そういったケースの場合は違う形を取るということもあります。個別ケースへの課題ですとか、地域課題は、ほかの圏域と同じように件数があるかとは思いますが、今回は、この地域ケア会議という形を取ったのが潮見包括よりも少なかったのかなという結論です。

(谷委員)

はい、ありがとうございました。この中のアンケートでは、その今出てきたような小会議だったり、別の形でされているようなものが何か出てきたりはしないので、何かの形でそういう数も何か出てくるような形にできればいいかなと思います。以上です。

(家高会長)

アンケート評価の取り方の問題として、地域ケア会議をどう捉えるのかという課題が1つ出てきたと思います。地域ケア会議という形態は取らなくても、ほかの様々な会議体で同じような対応をされているということで、この地域ケア会議は単に個別のケースを対応するだけではなく、ネットワークの形成機能、地域課題を抽出する機能とか、様々な機能もあるので、また実践を継続いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

(家高会長)

そのほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

今回の報告を見させていただいて、相談事例の件数についてやはりどこの包括も年々増えている状況で、ある程度落ち着いても、数年経つとまた継続的に出てきてしまったりする中で、さらに新規のケースが入ってくる。相談件数は恐らくずっと増え続ける中で、それに対応しなければならないという、非常に大変な対応をいただいていると思います。

そうした中で、この先ほどの議案1にも出てきましたけれども、10ページの収支で見えていくと、現状としては赤字が続いているのが1つの課題だと思いますので、この点もまた行政のほうも引き続き検討いただけたらと思います。社会保障のどの分野に予算を割くのかは非常に難しい問題ではありますが、継続的に御検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、続いて各包括から報告をよろしくお願いいたします。

(西山手高齢者生活支援センター 森)

～資料4-2「地域包括支援センター活動状況の報告（イチオン活動）（西山手）」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。では、西山手地域包括支援センターさんからの報告をいただきましたけれども、何か御質問とか御意見ありますでしょうか。

(山田委員)

先ほども広報のお話とか出たのですけれども、この参加者の方は、広報とか掲示板に掲示ただけで、自発的に集まれた方ばかりですか。集まってこられるのに苦労されたことはありますか。

(西山手高齢者生活支援センター 森)

広報が一番多かったのと、その後、掲示板を見てという方と、直接さわやか体操でこちらのほうが働きかけて応募してくださるという形でした。

(山田委員)

じゃあ、集まらなくてすごい必死で探したとか、そういうことではなさそうですね。

(西山手高齢者生活支援センター 森)

こちら1人か2人だったらどうしようと思っていたのですが、広報しただけで20名近く応募いただきました。

(山田委員)

やはり広報あしやでの参加が一番多かったのですね。

(西山手高齢者生活支援センター 森)

はい。アンケートの結果はそうになっています。

(家高会長)

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。はい、木下委員、お願いします。

(木下委員)

御報告ありがとうございます。男性が参加できる所というのは本当に少ないし、実際、何かがあったとしても、やはり一歩出にくいという方が多いのですが、これはまた継続してされるのかをお聞きしたいのと、参加される方は西山手の圏域の方ばかりでしょうか。

(西山手高齢者生活支援センター 森)

広報あしやを見て参加された方は市内全域ですが、特に同じ西山手圏域の方が多いという印象です。今後に関しては、今回行った会に関しては自主化をできたらいいなというのを、今一番に考えておまして、この後、来年度、再来年度、同じようなコーヒーマカデミーをするかというのは、今、私たちの中でも検討中になっています。

(木下委員)

ありがとうございます。

(家高会長)

他はいかがでしょう。和田委員、お願いします。

(和田委員)

すみません、男性の社会参加は確かに難しいというイメージがあるのですが、こうやって参加していただけるのは、こういうことを働きかければ男性も結構来るよというようなコツみたいなものがあるのですか。

(西山手高齢者生活支援センター 鈴木)

今回、予想を超える応募者がたくさんいらっしやったのは、まずコーヒーっていうツールもよかったと思います。今までは介護予防と言うと、イコール体操みたいなイメージだったのですが、先ほど申し上げたように、やはりあまり真面目に介護予防や認知症などを全面に出すと、やはり潜在化のニーズが拾えないということで、ちょっと楽しそうな、面白そうなのところを全面に出して広報をしております

奥様とか子供さんなど家族さんの勧めも大きいような気がしますが、やはり、通って楽しかったという感情的な部分を全面に出すのが継続していただく秘訣かなと思っています。うまくいくかどうかはまだ途中の段階で分からないです。ただ、私たちが狙うところはイベント屋ではないので、これが活躍の場として社会参加をしていただいて、また自主化グループで、いろんなところで活動していただけるような支援をしていきたいと思っています。

(家高会長)

ありがとうございます。それでは次に、東山手さんの報告に入らせていただきます。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

～資料4-2「地域包括支援センター活動状況の報告（イチオン活動）（東山手）」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。この東山手さんの取組につきまして、何か御質問、御意見等はございますか。

(有田委員)

これは孤立化している独り暮らしの方とかを見回るのが目的なのでしょうか。何かその孤立化している人が家で困っていて、そのひきこもりみたいになっていくのを予防するために地域のそのマンション内の方が定期巡回するということなのでしょうか。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

マンション内のその取組については、基本、マンションの方にどういうふうな方法が一番いいだろうというところを、今、ヒアリングを進めています。そこに出てきてくださることをきっかけに、このマンションの中で体操というツールを通じて集まってきていらっしゃるんですけど、その方たちが自分たちでそのつながりを継続していくためにどうしたらいいのだろうというところを今考えてもらっているところなので、そこが孤立化予防につながればいいなというところです。もともとのかっかけとして、マンションの中で孤立死というか、ひっそり亡くなっているのを誰も知らなかったというようなところが起きて、そういったところで、そういうお互いつながるという気持ちを持ってもらえたらというので働きかけを行っています。

(有田委員)

なるほど。では、この東山手さんが直接するのではなくて、そのマンションの中で体操とかで寄ってもらって、自主的なグループをつくることを働きかけていくっていう。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

はい。

(有田委員)

ありがとうございます。

(三谷委員)

1つ、すみません、マンションって何世帯ぐらいあるところなのですか。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

多分150世帯ほどのまあまあ大きめのマンションです。

(三谷委員)

結構大きいところですね。例えば、小さいところだと14世帯ぐらいしかないマンションもありますが、そういった所はどうされますか。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

現状なかなか小さいマンションまでは正直、手が回っていないところであります。あと、マンションの管理人さんの壁みたいなのがやはりありまして、マンション管理人さんにも御協力いただきながら進めないといけないところがあるのですが、個人情報の兼ね合いで御理解いただけないマンションもあります。

(三谷委員)

大きいとこで古いマンションだったら、やはり高齢者の方が大勢いらっしゃるから、やはり進むのが早いと思うのですけど。逆に今、14世帯とか大きくて高いところもできているけど、少ないところ、今後やはり年月が経っていくと、そういう問題も出てくるのではないかと思いますので聞いてみました。

(東山手高齢者生活支援センター 仲西)

そうですね。ちょっとその辺もやはり年が経つにつれて、住まれている方の年齢層も上がっていきますので、外に出ながら職員のほうで把握していけたらと思っています。

(三谷委員)

はい、ありがとうございます。

(家高会長)

それでは、次に精道高齢者生活支援センターの説明をお願いいたします。

(精道高齢者生活支援センター 田中・黒岩)

～資料4-2「地域包括支援センター活動状況の報告（イチオン活動）（精道）」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。それでは、何か御質問、御意見等ありますでしょうか。

(三谷委員)

9月のあしやの会はいつありますか。

(精道高齢者生活支援センター 田中)

あしやの会は明日開催予定です。

(三谷委員)

分かりました。先ほど、あしやの会の話を聞いていて、私も何回か参加させていただいたのですが、当事者が集まらないというのはよく分かるのです。大変なことだと思うので。

それで、ここで現状申し上げますと、あじさいの会も来年で30周年なのですが、お世話人の方が、やはり皆さん高齢になってきて、活動できる方が年々少なくなっています。今月は20人も参加者が来てくださっているのですが、広報とか見て来てくださっているのですけれども、現状、来られる方というのは、高齢ですから、継続的に来てくださる方は少ないです。

その中で、世話人になってもらえたら本当はうれしいのですが、そういう余裕はまずないと思います。はっきり言うと若い方は入ってこられてないのが事実です。

今日こういう提案をして、それが本当にうまくいくかどうかは何とも分かりませんが

も、やっぱりあしやの会もせっかく皆さん頑張ってくつてくださっているのに、どこかでこれはもう協力し合うところが、接点ができたらいいなと。そうしないと、あじさいの会もいつかなくなってしまうのではないかといつも思っています。やはり、ほかの市でも、世話人の方が高齢になったり、あるいは病気になったり何かして、続ける人がいなかったら自然消滅になっている市はたくさんあると思うので、よく30年頑張つて、皆さん続いていらしたと思うのですが、その30年にはいろいろあったと思うのです。そういうのが現状ということで、また何かいい方法があったらアドバイスいただけたらうれしいなと思って、この場を借りてお願いいたします。以上です。

(家高会長)

ありがとうございます。自主グループ化して、そこからの継続の難しさ、また、活動に参加してくれる方はいても、そこからさらにリーダーとして引っ張っていただく方をつくり出していくことの難しさみたいなのところも触れられていたかなというふうに思いますけれども。

そのほか何かございますか。特によろしいでしょうか。では、続きまして、潮見高齢者生活支援センターさんから御報告をよろしく願ひします。

(潮見高齢者生活支援センター 宮本)

～資料4-2「地域包括支援センター活動状況の報告（イチオシ活動）（潮見）」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。では、潮見高齢者生活支援センターさんのほうからの報告につきまして、何か御質問、御意見等、はい。馬場委員願ひします。

(馬場委員)

地域的なことですが、潮見の方は若葉町を担当していらっしゃるね。若葉町に民生委員さんが今1人しかいらっしゃらないのです。多くの世帯がある中で民生委員1人というのは大変だと思います。割に捨て猫が多くて、中央公園だとかキャナルパークとか、あの辺にいるのですよね。そこへえさを餌に見える方がいて。民生委員さんに1回頼んだことあるのですけど、やはり民生委員の人数を増やしてほしいなと思うのですけど、いかがでしょうか。

(事務局 久保田)

地域を担う民生委員の活動については、また所管するところがございしますので、今日いただいた御意見はそちらにしっかり伝えていきたいと思ひます。

(馬場委員)

よろしく願ひします。

(家高会長)

民生委員の担い手不足の問題でも、全国的に課題になっているので、芦屋市の中でも御検討いただけたらと思ひます。はい。そのほか、いかがでしょうか。

(山本委員)

今、民生委員が少ないのは、私たちも困っているところですが、もう潮見地区の民生委員が少ないというので、困っているところですが探してはいます。でも、皆さんお忙しくされてい

て、探す気力も減ってしまいます。

潮見包括さんは、こちらが困ったときにすぐに対応してくださるので本当に助かっています。またLSAさんにも色々のご協力を頂けるので、私たち民生委員として助かっているところは多いです。

それと、民生委員とケアマネジャーとの顔合わせというのをまた開催していただけたら嬉しいです。以上です。

(家高会長)

ありがとうございます。では、次に基幹業務担当から報告をお願いします。

(基幹的業務担当 針山)

～資料4－2「地域包括支援センター活動状況の報告（イチオシ活動）（基幹）」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。先ほどの報告につきまして、御質問、御意見等、何かございますか。特によろしいでしょうか。

会議が増えるということについて、ぜひとも、業務の効率化は非常に重要なことだと思いますので、取組を進めていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の議題に入らせていただきたいと思います。

(事務局 久保田)

～資料5「介護予防支援業務の委託を認定した市内居宅介護支援事業所一覧」
に基づき説明～

(家高会長)

ありがとうございます。この件に関しまして、何か御質問、御意見等ありますでしょうか。特によろしいでしょうか。

包括の委託先が増えているということで、これでうまく委託を受けてもらえるといいなというふうに思いますけれども。では、この件に関しては以上でよろしいでしょうか。

それでは、次の議題の「その他」ですが、事務局から何かございますか。

(事務局 久保田)

今回の運営協議会から、地域包括支援センターが5か所に増えて運営させていただくことになりますので、この会議の進め方も一旦見直しをさせていただいて、できるだけ実効性のある、そして、包括の方々の負担軽減になるような会議運営を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(家高会長)

予定していた議題は以上になりますので、閉会に移ります。

(事務局 久保田)

ありがとうございました。次回は令和7年3月頃に第3回の開催を予定しております。

それでは、令和6年度第2回地域包括支援センター運営協議会をこれで終了させていただきます。

(家高会長)

次回も皆様、よろしくお願いいたします。